

基礎的読解力と読書の質

指宿高等学校 学校司書 福富早央里

近い将来人類はAIに仕事を奪われるのでしょうか。数学者で、教育のための科学研究所所長の新井紀子さんは、人工知能プロジェクト「ロボッツは東大に入れるか」において、AIにしかできないこと、そして、人間だからこそできることは何かを研究されています。

そして代表的な著書である『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』では日本の中高生の多くが中学校の教科書の文章を正確に理解できない今、基礎的読解力の大切さを的確に指摘しています。このことは、新学習指導要領で示されている思考力・判断力・表現力を培

うためにも不可欠なものと考えます。これからのAI社会を生き抜くためにもぜひ親子で読んでみたい本です。

また、文部科学省のデータをみると全国的に小学生の読書の質が落ちてきていることが示されており、古典文学や伝記類が読まれない傾向にあるようです。本校でもビブリオバトル紹介本や図書室で年間に最も読まれた上位十冊にこの傾向が顕著に表れているように思います。

そこで、読書の「質」を意識して読んでもらいたい本が原研哉著『白百』です。グラフィックデザイナーでもある著者が、百の「白」について美し

い日本語で深く綴ったエッセイです。紙・雪・卵・白湯・数式とチョーク・伊勢神宮などさまざまな「白」に彩られたエッセイに心を馳せ、読書力を高めてみませんか。

今回紹介した本
『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』
「新井紀子著・東洋経済新報社」
『白百』「原研哉著・中央公論新社」

